

緊急情報

大豆農事メモ

平成 27 年 8 月 3 日
松任市農業協同組合

新潟地方気象台 平成 27 年 7 月 30 日発表

☆☆ 向こう1か月の天候の見通し北陸地方☆☆
(8月1日～8月31日)

予報のポイント

- 期間の前半は太平洋高気圧の張り出しが強く、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。このため、向こう1か月の気温が高く、日照時間は多いでしょう。

7月24日発表の3か月予報の8月の見通しに比べ、日本付近で太平洋高気圧の勢力が強く、気温が高く、降水量が少ない予報に変わりました。

**乾き夏? 水分補給で根・茎・葉ともに元気に
= 品質・収量アップ**

土の乾き具合

&

葉の返り具合

うね間かん水の実践

かん水の
目安



- うね間や額縁排水溝と排水口の連結を確認し、手直しを忘れずに行いましょう。
- 大豆は、開花期から8月下旬までが、最も水分を必要とする時期です。
- 開花期以降、3日以上晴天が続いたら、土の乾き具合に応じてうね間かん水を行いましょ。なお、かん水は短時間で行い、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水する。

梅雨明け後の乾燥による大豆への影響としては、葉の裏返りや落花・落莢(らっきょう)などが目立つ。根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい。

特に大豆は吸収窒素量の5割程度を根粒により空気中の窒素を固定して利用しているが、根粒は乾燥に著しく弱く、わずかな干ばつでも窒素固定は低下してしまう。これを避ける対策として、うね間かん水は非常に重要である。